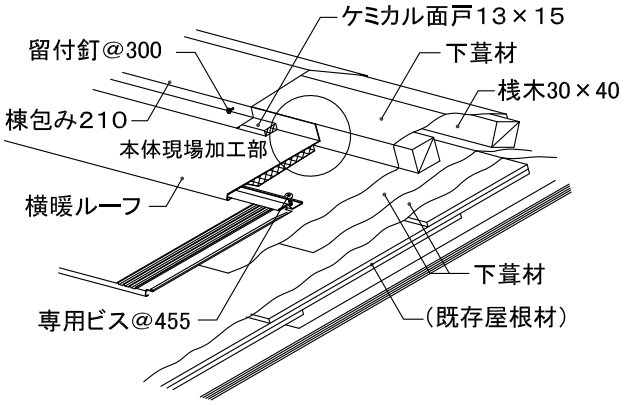
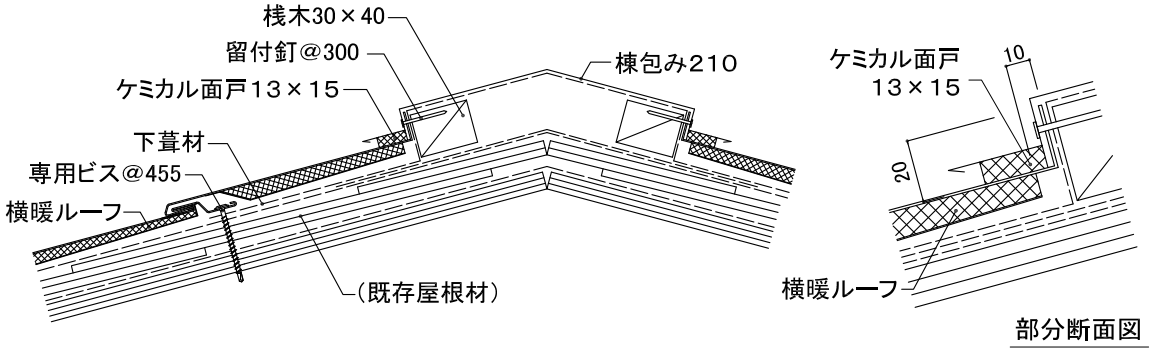
横暖ルーフ	工法	既存屋根材
	重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

5）大棟部　　①棟包み210

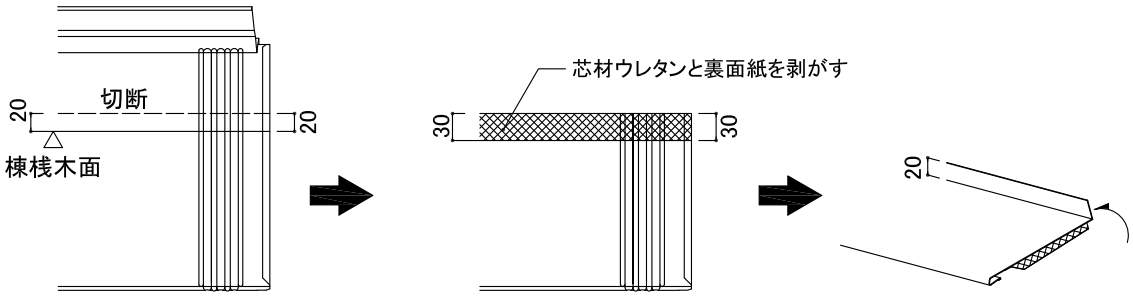
●既存屋根材に下葺材を張ります。
●棟部に桟木30×40を外側2ヶ所取り付け、桟木を包むように下葺材を増し張りします。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
●棟部は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は、留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を用いて、300㎜以下の間隔で桟木に留め付けます。
●けらば部は棟巴を使用して納めます。





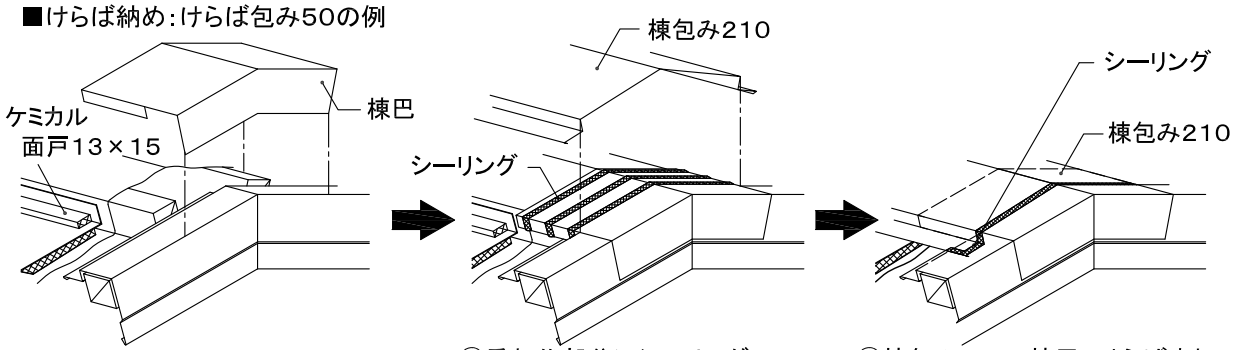
部分断面図

■施工ポイント・現場加工図
●横暖ルーフ本体の大棟部分は、図のように加工します。



①棟桟木面から図の寸法で切断します。
②端部から30㎜の位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。
③端部から20㎜の位置を折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め：けらば包み50の例



①棟巴を屋根勾配に合わせて、けらば包み50と桟木の上にかぶせます。
②重ね代部分にシーリングでビードを3本作り、棟包み210をかぶせます。
③棟包み210、棟巴、けらば水切が交る部分に、捨てシーリングを施工します。